



暑い日が続きます。

さて、今号では「和歌山ゆかりの先人」について書かれた本を紹介しています。ぜひ読んでみてください。



夏休みにいかが

和歌山出身の作家が書いた和歌山の有名人の本を読んでみませんか。ずっしりと重みのある内容で読み応えばっちりです。図書館の郷土資料コーナーに置いています。読みやすい大きさの文庫本サイズもあります。

『華岡青洲の妻』

有吉佐和子（著）

世界初の全身麻酔による乳癌手術に成功した医師、華岡青洲。

麻酔剤「通仙散」を作り出すために、人体実験を申し出た青洲の母於継と嫁の加恵【913.6】

『大悲の海に』

～^{かくぼん}覚鑿上人伝～

津本陽（著）【099】

『縛られた巨人』

～南方熊楠の生涯～

^{こうさかしろう}神坂次郎（著）【092】

『南方熊楠アルバム』

中瀬喜陽・長谷川興蔵（編）

【092】

『およどん盛衰記』

～南方家の女たち～

^{こうさかしろう}神坂次郎（著）

およどんというのは、女中さんのことです。田辺に居を構えた南方熊楠と7人のおよどんや町の人びととの交流を書いた本です。

南方熊楠のちょっと風変わりな人柄が書かれていて、思わずぶっと吹き出してしまいます。しかも登場人物の会話がすべて和歌山弁丸出しです。なかなか他にはない作品です。【099】



図書館からのお知らせ

★夏休み前の長期貸出が始まっています。

ひとり 5冊 返却日 8月25日（木）

★free Magazine『Ch FILES』が入りました。7月号から入っています。興味のある生徒は図書館へ来て下さい。

【ふるさと教育副読本】

『わかやま何でも帳』

令和4（2022）年度改訂版

に、「和歌山ゆかりの先人」

について詳しく掲載されています。

『江戸時代人づくり風土記³⁰』

ふるさとの人と知恵 和歌山』

安藤精一（監修） 【092】

南方熊楠をもっと
知りたい人には・・・

漫画『猫楠』

～南方熊楠の生涯～

水木しげる（著）【726】

『奇想天外の巨人』

南方熊楠』荒俣宏他（著）

【092】

♪新しい本がいっぱい・・・♪



	書名	著者名	出版社	分類番号
1	中国のデジタルイノベーション (岩波新書 1931)	小池政就	岩波書店	007.3
2	読書会という幸福 (岩波新書 1932)	向井和美	岩波書店	015.6
3	西田幾多郎一物の真実に行く道 (岩波新書 1929)	小坂国継	岩波書店	121.63
4	空海	松長有慶	岩波書店	188.52
5	人種主義の歴史 (岩波新書 1930)	平野千果子	岩波書店	316.8
6	職業としての官僚 (岩波新書 1927)	嶋田博子	岩波書店	317.3
7	日本国勢図会 2022/23	矢野恒太記念会	矢野恒太記念会	351
8	歴史像を伝えるシリーズ歴史総合を学ぶ② (岩波新書 1918)	成田龍一	岩波書店	375.324
9	日米地位協定の現場を行くー「基地のある街」の現実 (岩波新書 1928)	山本章子 宮城裕也	岩波書店	395.3
10	大絶滅は、また起きるのか (岩波ジュニア新書 953)	高橋瑞樹	岩波書店	462
11	ひらめき！英語迷言教室ージョークのオチを考えよう (岩波ジュニア新書 952)	右田邦雄	岩波書店	830.4
12	公共図書館を育てる	永田治樹	青弓社	016.2
13	攻撃される知識の歴史	リチャード・オガデン	柏書房	023.8
14	岩波講座世界歴史04 南アジアと東南アジア～15世紀	荒川正晴 他	岩波書店	209
15	裸足で逃げる	上間陽子	太田出版	367.6199
16	人体大全	ビル・ブライソン	新潮社	491
17	新版 土門拳の昭和	土門拳	ルヴァン	748
18	天命 (文庫)	岩井三四二	光文社	913.6
19	瀬戸内寂聴全集 25	瀬戸内寂聴	新潮社	913.6
20	爆弾	呉勝浩	講談社	913.6
21	この空のずっとずっと向こう	鳴海風	ポプラ社	913.6

司書イチおし・・・

『サーカスの夜に』

小川糸 (著)

13歳の僕はおばあさんに引き取られて、生活をしていました。誕生日を迎えて、あこがれのレインボーサーカスに飛び込みました。個性豊かなサーカス団の仲間に出会って、僕はいよいよサーカス団の一員として綱渡りの術を習得していきます。「心は自由だ。どこにでも行ける。僕の心は、いつだって自由なんだ。」【913.6】



岩波ジュニア新書 953

『大絶滅は、また起きるのか?』

高橋瑞樹 (著)

毎日、最大150種もの生きものたちが地球上から姿を消している。と2007年に国連の生物多様性条約事務局が発表しました。絶滅の速度は加速し続けて、現在も生きものは減り続けています。

過去に5回あった生きものの大絶滅とは違うのは、原因が人間にあるということです。筆者はまだ今なら間に合うと書いています。私たちがどうすればいいのか、考えることができる本です。

【462】

